

施策評価調書(1)

評価対象年度 28年度

めざす姿	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち”
施策名	5 地域資源の活用
施策関係課	市長室:広報課/経済部:産業労働政策課、産業振興課/生涯学習部:文化推進室、文化財課

●施策の基本方針(目標)

本市が持つ多種多様な魅力と誇りを育み、市内外に発信していくことで、多くの交流や活動を生み出し、まちを元気にしていきます。

●目標指標

指標	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査)	単位	%	指標の種別	成果
指標①	目標値	現状値を上回る(平成32年度)	現状値	30.9(平成27年度)	達成状況	
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)
	実績値	31.1				
	名称	記者会見・記者発表・資料提供件数		単位	件	指標の種別
指標②	目標値	420(平成32年度)	現状値	379(平成26年度)	達成状況	
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)
	実績値	368				
	名称	1110city.comのページビュー月平均件数		単位	件	指標の種別
指標③	目標値	84,000(平成32年度)	現状値	76,402(平成25年度)	達成状況	
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)
	実績値	32,082				
	名称			単位		指標の種別
指標④	目標値	現状値		達成状況		
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)
	実績値					
	名称			単位		指標の種別
指標⑤	目標値	現状値		達成状況		
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)
	実績値					

*「達成状況」: 目標年度に判定します。(目標値達成を「達成」、目標値未達を「未達成」)

事業額	(単位:千円)	28年度決算見込額	29年度予算額	30年度計画額	31年度計画額	32年度計画額
事業費		166,088	164,405	256,153		
概算人件費		139,912	135,598	135,598		
総事業費		306,000	300,003	391,751		

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 55	単位施策② 48	単位施策③ 54	結果(平均値)が55以上:A 結果(平均値)が50以上55未満:B 結果(平均値)が40以上50未満:C 結果(平均値)が40未満:D
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
			52.3		

施策評価調書(2)

評価対象年度	28年度
--------	------

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

単位施策名 ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施							
事業コード	事業名称	担当課	28年度 事業費 (決算見込額)	29年度 事業費 (予算額)	30年度 事業費 (計画額)	28年度の 総評価	29年度の 実施方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35100103	シティプロモーション事業	市長室 広報課	17,503	48,103	48,103	54	拡充して実施
			11,890	11,310	11,310		
35100202	観光事業	経済部 産業振興課	21,889	12,011	92,011	56	効率化して実施
			15,990	15,210	15,210		
35100301	その他広報事業	市長室 広報課	10,399	10,898	10,898	56	現状維持で実施
			5,330	6,630	6,630		

単位施策名 ② 歴史的資源の保護と活用							
事業コード	事業名称	担当課	28年度 事業費 (決算見込額)	29年度 事業費 (予算額)	30年度 事業費 (計画額)	28年度の 総評価	29年度の 実施方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35200102	伊奈半十郎忠治像建立事業	生涯学習部 文化推進室	1,588	2,544	5,470	46	現状維持で実施
			902	858	858		
35200202	郷土資料館施設運営費	生涯学習部 文化財課	4,496	3,784	3,784	47	拡充して実施
			15,580	14,820	14,820		
35200301	史跡等管理事業	生涯学習部 文化財課	15,685	16,202	16,202	48	拡充して実施
			4,100	3,900	3,900		
35200401	赤山城跡保存整備事業	生涯学習部 文化財課	28,957	4,067	4,067	40	拡充して実施
			4,100	3,900	3,900		
35200501	遺跡発掘調査事業	生涯学習部 文化財課	8,573	9,511	9,511	58	現状維持で実施
			22,140	21,060	21,060		
35200601	民俗文化財等調査事業	生涯学習部 文化財課	8,460	8,527	8,527	36	現状維持で実施
			2,460	2,340	2,340		
35200701	指定文化財候補物件調査事業	生涯学習部 文化財課	460	380	380	46	拡充して実施
			4,100	3,900	3,900		
35200801	文化財センター施設運営費	生涯学習部 文化財課	1,685	1,732	1,732	48	拡充して実施
			13,120	12,480	12,480		
35200901	歴史的建造物施設運営費	生涯学習部 文化財課	1,475	670	670	58	拡充して実施
			5,740	5,460	5,460		
35201001	文化財保管倉庫等管理費	生涯学習部 文化財課	782	903	903	43	現状維持で実施
			7,380	7,020	7,020		
35201101	その他文化財保護費	生涯学習部 文化財課	4,089	2,583	2,583	53	拡充して実施
			3,280	3,120	3,120		
35201201	古文書資料収集保管事業	生涯学習部 文化財課	2,074	3,397	2,219	46	現状維持で実施
			6,570	6,530	6,530		
35201301	古文書解説事業	生涯学習部 文化財課	2,428	2,515	2,515	55	拡充して実施
			6,570	6,530	6,530		

単位施策名 ③ SKIPシティを活用した地域の活性化							
事業コード	事業名称	担当課	28年度 事業費 (決算見込額)	29年度 事業費 (予算額)	30年度 事業費 (計画額)	28年度の 総評価	29年度の 実施方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35300102	NHK跡地整備事業	経済部 産業労働政策課	5,360	6,393	6,393	54	縮小して実施
			4,920	4,680	4,680		

施策評価調書(2)

評価対象年度	28年度
--------	------

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

事業コード	事業名称	担当課	28年度 事業費 (決算見込額)	29年度 事業費 (予算額)	30年度 事業費 (計画額)	28年度の 総評価	29年度の 実施方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35300202	映画祭関連事業	経済部	25,000	25,000	35,000	56	現状維持で実施
		産業労働政策課	4,510	4,290	4,290		
35300302	映像関連普及事業	経済部	5,185	5,185	5,185	52	現状維持で実施
		産業労働政策課	1,230	1,560	1,560		

実施計画事業評価調査

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35100103	事業名称	シティプロモーション事業	事業区分	主要な事業 総合戦略C
担当	市長室	広報課	問い合わせ先	2231	新規・継続
					新規

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 28 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 市民及び市外在住者	受益者(最終的に受益を受ける人)	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために) 若者世代の流出を阻むように市の魅力を向上させる他、若者世代の定住促進に留まらず一人でも多くの若者世代、子育て世代の人々、そして本市の伝統であるものづくり産業の担い手、操業者・起業者等を市外から本市により多く呼び込むことを目的とする。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) ・誘客情報サイト「1110city.com」を基盤とした情報発信 ・川口市マスコット「きゅぼらん」を活用したPR活動 ・定住促進冊子を活用した本市知名度の向上 ・市内外の広告ビジョン、鉄道車両内や駅構内のモニターを用いた本市PR動画の放映 など		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) 「1110city.com」や埼玉高速鉄道の車内モニターでCMを本市情報を市内外に発信した。若者世代に向け小冊子「イイ川口」を作成し、不動産会社や大学に送付した。子育て世代向けにPR動画を作成し、JRでの放映や市ホームページに掲載し定住を訴えた。	主な活動実績		
		項目	実績	単位
活動の成果【定性的評価】	定住促進冊子やPR動画が報道機関に取り上げられ、インターネットやツイッター上で好評価を得られている。	誘客情報サイトのページビュー件数	32,082	件

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	誘客情報サイトのページビュー件数	目標値	48,000	48,000	48,000
	単位	件	指標の種別	結果	実績値・達成状況	32,082
指標・目標値の説明(算定式)		誘客情報サイト「1110city.com」のページを閲覧した年度累計数の月平均件数(件)				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別	実績値・達成状況		
指標・目標値の説明(算定式)						

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	02款	01項	10目	002細目	04細々目	シティプロモーション事業					
年度	28年度				29年度			30年度				
予算現額(A)	18,623				48,103			48,103				
決算額(B)	17,503											
財源	特定財源	2,549										
	一般財源	14,954										
概算人件費(C)	11,890				11,310			11,310				
従事職員人数(人)	常勤	1.45	再任用	0.00	常勤	1.45	再任用	0.00	常勤	1.45	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	29,393				59,413			59,413				

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	各種調査によると、依然として川口市の知名度は高いとは言えない状況である。交流・定住人口を増加させるには、川口市をより広く周知する必要があるため、誘客情報サイト「1110city.com」をより使いやすくするリニューアルやさらなるPR動画の作成等、従来の事業内容をさらに強化していく。	29年度 拡充して実施 30年度 現状維持で実施 31年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35100202	事業名称	観光事業			事業区分	主要な事業 政策宣言12
担当	経済部	産業振興課	問い合わせ先	2036	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	地域資源活用事業補助金交付要綱、川口まちかど観光案内所事業実施要綱

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 市民等	受益者(最終的に受益を受ける人) 同左		
事業の概要	事業の目的(何のために) 魅力ある訪れたいまち、選ばれるまちを目指し、様々な地域資源を活用した観光振興に取り組む。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) ・観光PR促進事業 ・地域資源を活用した事業への団体補助金 ・歴史的財産「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」の実施、PR ・まちかど観光案内所事業		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・観光PR促進事業 ・地域資源を活用し、活動している地域団体の事業に対し、対象経費の50%(上限200,000円)を助成。 ・歴史的財産「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」PRイベント、「秋絵巻」を実施	主な活動実績		
		項目	実績	単位
		日光御成道まつり・秋絵巻、来場者数	83,000	人
		地域資源活用事業補助金の交付	2	件
活動の成果【定性的評価】	地域資源を活用したイベント等により、市外から多くの来場者が訪れ、観光誘客に繋がったとともに、市民の地域愛の醸成に寄与した。			

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	地域資源活用事業補助金交付件数	目標値	4		
	単位	件	指標の種別	結果	実績値・達成状況	2 未達成
	指標・目標値の説明(算定式)		地域資源を活用し、活動している地域団体への助成。			
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	003細目	01細々目	観光事業					
年度	28年度			29年度			30年度					
予算現額(A)	23,733			12,011			92,011					
決算額(B)	21,889											
財源	特定財源	0										
	一般財源	21,889										
概算人件費(C)	15,990			15,210			15,210					
従事職員人数(人)	常勤	1.95	再任用	0.00	常勤	1.95	再任用	0.00	常勤	1.95	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	37,879			27,221			107,221					

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	観光物産協会、商工団体、緑化団体、商店街等と協力・連携し、時代にあった地域資源を活用する事業を展開する必要がある。発展した事業を展開するため、情報共有・収集に努め、連携した事業展開を目指す。	29年度 効率化して実施 30年度 拡充して実施 31年度 効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35100301	事業名称	その他広報事業			事業区分	通常事業
担当	市長室	広報課	問い合わせ先	2231	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	年	～	年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施		
根拠法令等			

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	川口市掲示板等を利用し、行政情報を提供するもの。	市内の約1,010基ある掲示板の維持管理及び市発行ポスターの貼付	
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績	
	毎月1～15日、16日～月末の2回を期間に市発行ポスターを貼付した。また、町会からの要望で随時、掲示板の新設・移設・修繕等を行った。	項目	実績 単位
		掲示板設置箇所数	1,010 基
活動の成果【定性的評価】	掲示板は市内の人目に付きやすい場所を利用して設置しており、広報効果は極めて高い。市内外に各種市政情報を提供することができた。		

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	掲示板設置箇所数	目標値	1,010	1,010	1,010
	単位	基	指標の種別	活動	実績値・達成状況	
	指標・目標値の説明(算定式)		掲示板設置箇所数(箇所)			
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	02款	01項	10目	002細目	05細々目	その他広報事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	10,718			10,898			10,898	
決算額(B)	10,399							
財源	特定財源	0						
	一般財源	10,399						
概算人件費(C)	5,330			6,630			6,630	
従事職員人数(人)	常勤	0.65	再任用	0.00	常勤	0.85	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	15,729			17,528			17,528	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	屋外での事業のため、風雨による破損やいたずら等のリスクを内包している。物理的な情報提供であるが、市ホームページとの連携を模索する等、より効果的な情報提供の検討も必要である。	29年度 現状維持で実施 30年度 現状維持で実施 31年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35200102	事業名称	伊奈半十郎忠治像建立事業			事業区分	主要な事業 政策宣言12
担当	生涯学習部	文化推進室	問い合わせ先	#72-2112	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 26 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民及び来訪者	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	本市に縁のある偉人であり、赤山陣屋の初代として関東郡代の基礎を築いた、伊奈半十郎忠治を顕彰しその功績を称え、像を建立することにより、市民に郷土の歴史を広く周知し、文化・郷土学習の推進及び郷土愛の育成を図り、併せて川口市のシンボルを目指す。	伊奈半十郎忠治像の銅像を建立する。	
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績	
	・伊奈半十郎忠治像コーディネータ委託 ・伊奈半十郎忠治像原型制作委託	項目	実績 単位
活動の成果【定性的評価】	川口市在住の彫刻家とコーディネーターに原型制作を依頼。		

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称		目標値			
	単位	指標の種類	実績値・達成状況			
	指標・目標値の説明(算定式)					
指標②	名称		目標値			
	単位	指標の種類	実績値・達成状況			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	12目	002細目	06細々目	伊奈半十郎忠治像建立事業					
年度	28年度			29年度			30年度					
予算現額(A)	5,940			2,544			5,470					
決算額(B)	1,588											
財源	特定財源	0										
	一般財源	1,588										
概算人件費(C)	902			858			858					
従事職員人数(人)	常勤	0.11	再任用	0.00	常勤	0.11	再任用	0.00	常勤	0.11	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	2,490			3,402			6,328					

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	3 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行わなかった	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	銅像の建立場所をどこにするかが課題であり、最適な場所に銅像を設置することが出来るように、関係各課と調整しながら事業を進めていく。	29年度 現状維持で実施 30年度 拡充して実施 31年度 完了

実施計画事業評価調書

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35200202	事業名称	郷土資料館施設運営費			事業区分	主要な事業 政策宣言12
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	昭和	56	年	～		年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” — 5 地域資源の活用 — ② 歴史的資源の保護と活用					
根拠法令等	川口市立文化財センター設置及び管理条例					

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)			受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民等			同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)			事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	市民に郷土の歴史・民俗・文化についての理解、文化財愛護の精神を深めてもらうとともに、収蔵資料を後世に伝えるもの。			文化財資料の展示・学習会・収蔵を行う施設として郷土資料館を運営する。		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)			主な活動実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 企画展 3回(絵図を楽しむ・ふるさと川口の祈りのかたち・昭和レトロの川口)を行った。 講座 4回(村絵図体感・川口の蛇信仰を考える・紅葉の安行史跡巡り・川口鑄物の名品を訪ねる)を行った。 			項目	実績	単位
				企画展	3,277	人
活動の成果【定性的評価】	市民に郷土の歴史・民俗・文化についての理解、文化財愛護の精神を深めてもらった。また、収蔵資料を適正に保存できた。					

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	郷土資料館来館者数	目標値	3,500	3,500	3,500
	単位	人	指標の種別	結果	実績値・達成状況	3,874 達成
	指標・目標値の説明(算定式)	来館者数				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	007細目	01細々目	郷土資料館施設運営費	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	4,872			3,784			3,784	
決算額(B)	4,496							
財源	特定財源		1,042					
	一般財源		3,454					
概算人件費(C)	15,580			14,820			14,820	
従事職員人数(人)	常勤	1.90	再任用	0.00	常勤	1.90	再任用	0.00
	常勤	1.90	再任用	0.00	常勤	1.90	再任用	0.00
	総事業費(A又はB+C)	20,076			18,604			18,604

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	8 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	足りなかった	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
47 /60	企画展を例年2回のところ平成28年度は3回に増やし、事業の充実をはかった。文化財案内マップも作成したので、今後は内容の一層の充実を図り来館者の増加へつなげたい。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35200301	事業名称	史跡等管理事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続
					継続

■事業期間・根拠等

事業期間	年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 市民等	受益者(最終的に受益を受ける人)	同左												
事業の概要	事業の目的(何のために) 国指定重要有形民俗文化財である「木曾呂の富士塚」及び県の旧跡である「赤山城跡」の保存管理等を行うもの。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) 「木曾呂の富士塚」と「赤山城跡」保存整備事業区域内における樹木管理、用地施設の修理、土地の借上げ等を行う。													
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・木曾呂の富士塚管理を行った。 ・赤山城跡管理を行った。 ・史跡修繕を行った。	主な活動実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木曾呂の富士塚樹木管理</td> <td>1,494</td> <td>m²</td> </tr> <tr> <td>赤山城跡樹木管理</td> <td>28,845</td> <td>m²</td> </tr> <tr> <td>赤山城跡賃貸借</td> <td>11,942.77</td> <td>m²</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	単位	木曾呂の富士塚樹木管理	1,494	m ²	赤山城跡樹木管理	28,845	m ²	赤山城跡賃貸借	11,942.77	m ²
項目	実績	単位													
木曾呂の富士塚樹木管理	1,494	m ²													
赤山城跡樹木管理	28,845	m ²													
赤山城跡賃貸借	11,942.77	m ²													
活動の成果【定性的評価】	樹木管理、修理等の整備や、土地の借上げを行うことにより、本市の貴重な文化財である「木曾呂の富士塚」と「赤山城跡」の保護をはかることができた。														

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	樹木管理面積	目標値	30,000	30,000	30,000
	単位	m ²	指標の種別	成果	実績値・達成状況	30,339 達成
指標・目標値の説明(算定式)		国指定重要有形民俗文化財と県の旧跡の保存管理面積				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
指標・目標値の説明(算定式)						

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	002細目	01細々目	史跡等管理事業
年度	28年度			29年度			30年度
予算現額(A)	15,771			16,202			16,202
決算額(B)	15,685						
財源	特定財源	0					
	一般財源	15,685					
概算人件費(C)	4,100			3,900			3,900
従事職員人数(人)	常勤	0.50	再任用	0.00	常勤	0.50	再任用
総事業費(A又はB+C)	19,785			20,102			20,102

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	9 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
48 /60	赤山城跡保存整備のための樹木管理等の箇所が年々増加している。今後は、活用をはかるため整備工事を検討する。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35200401	事業名称	赤山城跡保存整備事業			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 2 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民等	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	県の旧跡で本市の重要な歴史遺産である「赤山城跡」の公有地化整備を行うもの。	「赤山城跡」の保存整備をはかるため、売却要望のある土地の購入を行う。	
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績	
	・県の旧跡である赤山城跡の用地購入を行った。	項目	実績 単位
		赤山城跡用地購入	958 m ²
活動の成果【定性的評価】	購入した用地は、本遺跡の一つである竹林区画の一部であり見学者の注目が高いことから、購入し管理したことで保存が図られ市民の遺跡に対する意識向上に貢献できた。		

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	公有地化	目標値	958	91	
	単位	m ²	指標の種別	結果	実績値・達成状況	958 達成
	指標・目標値の説明(算定式)	旧跡の公有地化				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	002細目	02細々目	赤山城跡保存整備事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	28,969			4,067			4,067	
決算額(B)	28,957							
財源	特定財源	0						
	一般財源	28,957						
概算人件費(C)	4,100			3,900			3,900	
従事職員人数(人)	常勤	0.50	再任用	0.00	常勤	0.50	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	33,057			7,967			7,967	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらももてない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	3 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行わなかった	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
40 /60	保存整備対象地が128,502㎡と広大なため、堀と遊歩道を優先して公有地化をはかっているが、買収に年月を要するため、有効的な活用を考えた購入をしていく。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35200501	事業名称	遺跡発掘調査事業			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	埋蔵文化財緊急調査国庫補助要綱、文化財保存事業費補助金交付要綱

■事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	発掘調査を伴う個人宅造の市民等、各種開発に伴い埋蔵文化財範囲確認調査を必要とする市民等・団体	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	各種開発事業に伴う、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地を確認するための範囲確認調査や埋蔵文化財の記録保存をはかるもの。	各種開発事業に伴い、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地を確認するための範囲確認調査や記録保存のための遺跡の発掘調査を実施する。また、発掘調査により出土した遺物等の整理作業を行うとともに記録にまとめ、報告書を刊行する。		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績		
	個人宅造に伴う発掘調査2件、範囲確認調査29件と平成27年度実施調査の整理作業及び報告書を刊行した。	項目	実績	単位
		個人宅造に伴う発掘調査	2	件
各種開発に伴う範囲確認調査		29	件	
実施調査整理作業及び報告書刊行	1	冊		
活動の成果【定性的評価】	埋蔵文化財の保存・活用がはかれた。			

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称		目標値			
	単位	指標の種別	実績値・達成状況			
	指標・目標値の説明(算定式)					
指標②	名称		目標値			
	単位	指標の種別	実績値・達成状況			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計			10款	06項	09目	003細目	01細々目	遺跡発掘調査事業			
年度	28年度			29年度			30年度					
予算現額(A)				8,573				9,511	9,511			
決算額(B)				8,573								
財源	特定財源			3,000								
	一般財源			5,573								
概算人件費(C)				22,140				21,060	21,060			
従事職員人数(人)	常勤	2.70	再任用	0.00	常勤	2.70	再任用	0.00	常勤	2.70	再任用	0.00
	総事業費(A又はB+C)			30,713				30,571	30,571			

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	十分行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
58 /60	現状維持で、同等の事業を実施して行く。	29年度	現状維持で実施
		30年度	現状維持で実施
		31年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35200601	事業名称	民俗文化財等調査事業			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 3 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市文化財保護条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	文化財資料	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	市内に所在する民俗文化財や铸件関係資料等の文化財資料を調査し保護するため。	民俗文化財資料等について現地調査を行い、記録する。また、収集した資料について、洗浄、メンテナンス、調査し台帳に整理し、収蔵・保管する。		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 民俗資料調査整理を行った。 小学校郷土資料調査を行った。 調査リスト作成を行った。 	項目	実績	単位
		民俗資料整理	1,191	点
活動の成果【定性的評価】	収集した民俗文化財資料を調査・整理・記録し、報告・展示・活用したことにより、市民の文化財愛護精神と郷土川口への郷土愛を育めた。			

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	民俗資料整理数	目標値	1,000	1,000	1,000
	単位	点	指標の種別	活動	実績値・達成状況	2,653 達成
	指標・目標値の説明(算定式)	民俗資料整理点数				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	003細目	02細々目	民俗文化財等調査事業						
年度	28年度				29年度				30年度				
予算現額(A)	8,184				8,527				8,527				
決算額(B)	8,460												
財源	特定財源	0											
	一般財源	8,460											
概算人件費(C)	2,460				2,340				2,340				
従事職員人数(人)	常勤	0.30	再任用	0.00	常勤	0.30	再任用	0.00	常勤	0.30	再任用	0.00	
総事業費(A又はB+C)	10,920				10,867				10,867				

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	9 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	低かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	3 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行わなかった	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
36 /60	民俗文化財資料未整理が未だ2,000点以上ある。民俗文化財基礎調査であり、今後、これを指定文化財等に結びつけていきたい。	29年度	現状維持で実施
		30年度	現状維持で実施
		31年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35200701	事業名称	指定文化財候補物件調査事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続
					継続

■事業期間・根拠等

事業期間	年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市文化財保護条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	文化財資料	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内に所在する指定候補文化財等の現地調査を行い、文化財の保存をはかるため。	市内に所在する指定候補文化財を文化財保護審議会委員等の専門家に依頼し、調査する。その成果を報告書にまとめ、教育委員会の諮問に基づく文化財保護審議会における審議会の資料とし、審議結果を答申する。指定文化財等の現地調査をする。	
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績	
		項目	実績 単位
		織物調査	4 回
		鋳物調査	4 回
活動の成果【定性的評価】	本市の歴史・文化や地域的特色を示す文化財を指定したことにより、文化財を保護し、市民の文化財愛護精神を養い郷土川口を愛する心を育めた。		

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	調査回数	目標値	8	8	8
	単位	回	指標の種別	実績値・達成状況	8	達成
	指標・目標値の説明(算定式)		文化財調査回数			
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別	実績値・達成状況		
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	003細目	03細々目	指定文化財候補物件調査事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	460			380			380	
決算額(B)	460							
財源	特定財源			0				
	一般財源			460				
概算人件費(C)	4,100			3,900			3,900	
従事職員人数(人)	常勤	0.50	再任用	0.00	常勤	0.50	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	4,560			4,280			4,280	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	9 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	川口の特徴である地場産業に関わる文化財を指定文化財としていくために、調査を実施している。今後、効率的に調査をしていく。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35200801	事業名称	文化財センター施設運営費			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民等	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内に所蔵する資料を文化財センターに収集・保管し、展示・活用する施設として運営するもの。	文化財資料の整理作業を実施し、活用・収蔵を行う。また市民に文化財の大切さを周知するために、文化財に関する講座等の開催のほか、企画展を開催する。	
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績	
	展示・学習会・資料収蔵を行う施設として文化財センターを運営した。	項目	実績 単位
		調査報告会	41 人
郷土資料館と連携した展示	1,052 人		
活動の成果【定性的評価】	市民対象に文化財の調査報告会を開催し、文化財に接する機会を設け理解を深めてもらった。また、小学生対象の社会科歴史教室等を開催したことにより、文化財愛護の精神を養えた。		

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	文化財センター来館者数	目標値	4,000	4,000	4,000
	単位	人	指標の種別	結果	実績値・達成状況	4,903 達成
	指標・目標値の説明(算定式)		来館者数			
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	004細目	01細々目	文化財センター施設運営費	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	2,319			1,732			1,732	
決算額(B)	1,685							
財源	特定財源	226						
	一般財源	1,459						
概算人件費(C)	13,120			12,480			12,480	
従事職員人数(人)	常勤	1.60	再任用	0.00	常勤	1.60	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	14,805			14,212			14,212	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	7 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
48 /60	平成28年度は郷土資料館と連携した展示を行い来館者数の増加に努めた。今後も、内容の充実に努め来館者数の増加へつなげたい。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35200901	事業名称	歴史的建造物施設運営費			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)			
	市民等	同左			
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)			
	国登録有形文化財「旧田中家住宅」の保存・活用を行うもの。	大正期に建設された「旧田中家住宅」の文化財としての魅力を多くの人に感じてもらうための活動事業や、また、文化財を保存するため活動しているボランティア団体「魅がきたい」への支援などを行う。			
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な活動実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 登録10周年記念事業を行った。 桃の節句を行った。 端午の節句を行った。 茶会を行った。 ボランティア団体「魅がきたい」活動支援を行った。 		項目	実績	単位
			登録10周年記念事業	1,356	人
			節句と茶会	2,299	人
		ボランティア団体活動	104	人	
活動の成果【定性的評価】	国登録有形文化財「旧田中家住宅」の魅力を広くPRし、文化財の価値や保護の理解を高めることができた。				

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	旧田中家住宅来館者数	目標値	5,000	5,500	6,000
	単位	人	指標の種別	結果	実績値・達成状況	
	指標・目標値の説明(算定式)	来館者数		7,065	達成	
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	005細目	01細々目	歴史的建造物施設運営費	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	847			670			670	
決算額(B)	1,475							
財源	特定財源	1,475						
	一般財源	0						
概算人件費(C)	5,740			5,460			5,460	
従事職員人数(人)	常勤	0.70	再任用	0.00	常勤	0.70	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	7,215			6,130			6,130	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待以上	15 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
58 /60	施設の活用は市民にその価値を知ってもらい上で重要であり、パンフレット印刷や記念イベントを通じ文化財の価値や保護の理解をさらに深めてもらうようにする。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35201001	事業名称	文化財保管倉庫等管理費			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成	2	年	～		年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用					
根拠法令等						

■事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの		実施形態	直営		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)		受益者(最終的に受益を受ける人)			
	文化財資料		市民等			
事業の概要	事業の目的(何のために)		事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)			
	寄贈・寄託された文化財資料や埋蔵文化財資料の遺物を収集・保管するため、また文化財の整理作業を行なうため。		文化財整理事務所(1ヶ所)、文化財収蔵庫(5ヶ所)の管理を行うもの。			
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な活動実績			
	文化財保管庫を維持管理し文化財資料を保管した。		項目	実績	単位	
活動の成果【定性的評価】	文化財整理事務所、文化財収蔵庫を適切に管理したことにより、文化財を劣化や災害から守れた。					

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称		目標値			
	単位		指標の種別	実績値・達成状況		
	指標・目標値の説明(算定式)					
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別	実績値・達成状況		
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	006細目	01細々目	文化財保管倉庫等管理費					
年度	28年度			29年度			30年度					
予算現額(A)	726			903			903					
決算額(B)	782											
財源	特定財源			0								
	一般財源			782								
概算人件費(C)	7,380			7,020			7,020					
従事職員人数(人)	常勤	0.90	再任用	0.00	常勤	0.90	再任用	0.00	常勤	0.90	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	8,162			7,923			7,923					

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	6 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	足りなかった	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
43 /60	現在、文化財の保管場所は数ヶ所の収蔵庫に保管されているが、収納スペースに限りがあり効率が悪いので、今後、ある程度の規模の収蔵場所を確保し集約化する必要がある。	29年度	現状維持で実施
		30年度	現状維持で実施
		31年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35201101	事業名称	その他文化財保護費			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成	元	年	～		年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用					
根拠法令等	川口市文化財保護条例、川口市管理維持費交付要綱、川口市文化財保存事業費交付要綱					

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	補助金・負担金		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)		受益者(最終的に受益を受ける人)			
	指定文化財所有者、市民		同左			
事業の概要	事業の目的(何のために)		事業の内容(事業期間を通して何をするのか)			
	指定文化財を維持管理・修理・活用するための費用の補助金交付を行うもの。		指定文化財維持管理費、無形民俗文化財保存継承費、文化財保存事業費補助金の交付を行う。また、文化財説明板の設置、各協議会負担金の交付を行う。			
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な活動実績			
	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財補助金交付事業を行った。 2つの指定文化財説明板の設置を行った。 		項目	実績	単位	
			指定文化財補助金交付	89	件	
		文化財説明板	2	件		
活動の成果【定性的評価】	指定文化財所有者・保持団体に補助金・交付金を交付したことで指定文化財が保護された。					

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	指定文化財管理数	目標値	89	90	90
	単位	件	指標の種別	実績値・達成状況	89	達成
	指標・目標値の説明(算定式)	指定文化財件数				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別	実績値・達成状況		
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	008細目	01細々目	その他文化財保護費	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	4,089			2,583			2,583	
決算額(B)	4,089							
財源	特定財源	0						
	一般財源	4,089						
概算人件費(C)	3,280			3,120			3,120	
従事職員人数(人)	常勤	0.40	再任用	0.00	常勤	0.40	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	7,369			5,703			5,703	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	補助金交付者の指定文化財を維持管理するうえでの課題を把握し、指定文化財を後世に伝えていくため適切に支援できるように計画する。	29年度	拡充して実施
		30年度	拡充して実施
		31年度	拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35201201	事業名称	古文書資料収集保管事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	252-3587	新規・継続
					継続

■事業期間・根拠等

事業期間	年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市文化財保護条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	本市に残された古文書、及び文化財課古文書係が保管する古文書	市民、及び本市の歴史に関心をもつ市外在住者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	本市の歴史を解明する上で不可欠な古文書を調査・収集し、収集した古文書を最適な形で後世に伝えるため。	本市に残された古文書の調査・収集・整理		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績		
	本市に残された古文書の調査・収集・文化財課古文書係が保管する古文書の再整理	項目	実績	単位
		古文書の収集	2	件
		古文書のデータ処理	131	点
	寄託古文書の再整理	9,783	点	
活動の成果【定性的評価】	本市に残された古文書を新たに2件131点収集し、データ処理を行ったほか、寄託史料の再整理を行った。			

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	古文書の収集件数	目標値	2	2	2
	単位	件	指標の種別	結果	実績値・達成状況	2 達成
	指標・目標値の説明(算定式)	古文書の収集は、所蔵者からの調査依頼等によって適宜行われるものであり、目標値を事前に設定できないため、年度実績を便宜上、目標値とする。				
指標②	名称	寄託古文書の再整理	目標値	9,783点		
	単位	点	指標の種別	結果	実績値・達成状況	9,783 達成
	指標・目標値の説明(算定式)	寄託古文書の再整理は平成28年度から実施を始めた事業であるが、個々の史料の状態、内容の難易度により定量的に目標を設定できないため、年度実績を便宜上、目標値とする。				

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	10目	002細目	01細々目	古文書資料収集保管事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	2,219			3,397			2,219	
決算額(B)	2,074							
財源	特定財源	0						
	一般財源	2,074						
概算人件費(C)	6,570			6,530			6,530	
従事職員人数(人)	常勤	0.60	再任用	0.50	常勤	0.60	再任用	0.50
総事業費(A又はB+C)	8,644			9,927			8,749	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	6 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	12 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	本市に残された古文書の調査・収集、文化財課古文書係が保管する古文書の管理は、今後も継続的に実施し、貴重な歴史史料をより良い形で後世に伝える必要がある。	29年度 現状維持で実施 30年度 現状維持で実施 31年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35201301	事業名称	古文書解読事業			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	252-3587	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市文化財保護条例

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営									
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)										
	市民、及び本市の歴史に関心をもつ市外在住者	同左										
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)										
	本市に残された古文書を解読し、後世に記録として残すほか、それを活用した事業を実施し、市民及び本市の歴史に関心をもつ人に広く公開するため。	専門家に依頼しての古文書解読・古文書講座の実施・解読した古文書を史料叢書として刊行										
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な活動実績									
	<ul style="list-style-type: none"> 古文書解読の推進 古文書講座の開催 川口市史料叢書第1集の刊行 		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古文書講座の開催</td> <td>5</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>川口市史料叢書の刊行</td> <td>300</td> <td>部</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	単位	古文書講座の開催	5	回	川口市史料叢書の刊行	300	部
	項目	実績	単位									
古文書講座の開催	5	回										
川口市史料叢書の刊行	300	部										
活動の成果【定性的評価】	文書講座の参加者、川口史料叢書の購入者に本市に残された古文書の重要性について広く周知することができた。											

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	古文書講座の参加者	目標値	30	60	60
	単位	人	指標の種別	結果	実績値・達成状況	
	指標・目標値の説明(算定式)		開催要項において設定した募集人数			
指標②	名称	川口史料叢書の販売冊数	目標値	50	50	
	単位	部	指標の種別	結果	実績値・達成状況	
	指標・目標値の説明(算定式)		刊行部数のうち、関係機関への頒布部数を除き、2年で完売することを想定。なお完売後は増刷予定。			

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	10目	002細目	02細々目	古文書解読事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	2,571			2,515			2,515	
決算額(B)	2,428							
財源	特定財源	0						
	一般財源	2,428						
概算人件費(C)	6,570			6,530			6,530	
従事職員人数(人)	常勤	0.60	再任用	0.50	常勤	0.60	再任用	0.50
総事業費(A又はB+C)	8,998			9,045			9,045	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待以上	15 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
55 /60	本市に残された古文書の解読を継続的に行い、その成果を市民に周知する事業について、更にさまざまな取り組みを行う必要がある。	29年度 拡充して実施 30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35300102	事業名称	NHK跡地整備事業			事業区分	主要な事業 政策宣言10
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	2446	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 11 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	さいたま新産業拠点整備計画、さいたま新産業拠点(SKIPシティ)B街区利用計画

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・事業者 ・地域住民 ・SKIPシティ来場者	受益者(最終的に受益を受ける人)	・市民	
事業の概要	事業の目的(何のために) ・映像などのコンテンツに関する新しい産業創出や情報発信の拠点とするため。 ・地域住民等の利便性向上のため。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) 映像などのコンテンツに関する新しい産業創出や情報発信の拠点として整備・活用するほか、地域住民等の利便性向上のために整備を図る。		
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・SKIPシティ利活用検討協議会の開催 ・SKIPシティ利活用検討協議会事業者ヒアリングの開催 ・SKIPシティB・C街区の維持管理		主な活動実績	
		項目	実績	単位
		SKIPシティ利活用検討協議会の開催	1	回
		事業者ヒアリング	4	回
		B・C街区の除草	2	回
活動の成果【定性的評価】	B・C街区利活用方法の可能性について、様々な知見を有する事業者からヒアリングを実施した。			

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	SKIPシティ利活用検討協議会の開催回数	目標値	1	2	2
	単位	回	指標の種別	活動	実績値・達成状況	1 達成
	指標・目標値の説明(算定式)	B・C街区の利活用について埼玉県と協議する非公開の協議会の開催日数				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	006細目	01細々目	NHK跡地整備事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	6,666			6,393			6,393	
決算額(B)	5,360							
財源	特定財源	0						
	一般財源	5,360						
概算人件費(C)	4,920			4,680			4,680	
従事職員人数(人)	常勤	0.60	再任用	0.00	常勤	0.60	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	10,280			11,073			11,073	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	B・C街区の整備にあたっては、関係機関と綿密に連携、協議していく必要がある。	29年度 縮小して実施
		30年度 現状維持で実施
		31年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 28年度

事業コード	35300202	事業名称	映画祭関連事業			事業区分	主要な事業 政策宣言10
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	2446	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成 15 年 ~ 年
第5次川口市総合計画	III 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	SKIPシティ国際映画祭開催基本方針

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	・映像クリエイター ・映像関連産業関係者 ・映画祭来場者	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	世界各国からデジタルで制作された映画を集め、優秀作品を上映し表彰していくことを通じて、「デジタルシネマ」の裾野を広げ、新しいクリエイターを発掘するとともに、将来本市の産業の核となる映像関連産業の育成に役立てていくことを目的に開催している。	○世界中から募集した作品に対し顕彰する。 ○受賞者への活動サポートや、クリエイターの市場参入を支援するイベントを開催する。 ○話題作・最新作の上映や、地域ぐるみで賑わいを創出するためのイベントを開催する。	
28年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な活動実績	
	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭の開催 また、映画祭内で川口を撮影場所としたオープニング作品「話す犬を、放す」を上映した。	項目	実績
活動の成果 【定性的評価】	本映画祭の受賞者が世界で活躍するなど、映画祭を通じて映像クリエイターの発掘・育成及びデジタルシネマの普及を図るとともに映画関係者の注目をSKIPシティに集めることで、本市の映像関連産業の振興に繋がっていると考えられる。		

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭着席率	目標値	64	64	64
	単位	%	指標の種別	結果	実績値・達成状況	57.2 未達成
	指標・目標値の説明(算定式)	総設定席数に対する入場者数の割合 入場者数÷総設定席数×100 (%) (最大の入場者数であった26年度基準) (9,104人)÷(14,225席)=64				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
	指標・目標値の説明(算定式)					

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	007細目	01細々目	映画祭関連事業	
年度	28年度			29年度			30年度	
予算現額(A)	25,048			25,000			35,000	
決算額(B)	25,000							
財源	特定財源	0						
	一般財源	25,000						
概算人件費(C)	4,510			4,290			4,290	
従事職員人数(人)	常勤	0.55	再任用	0.00	常勤	0.55	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	29,510			29,290			39,290	

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	年々映画祭の来場者・応募作品・参加国数が増えており、世界に知られる国際的な映画祭としての地位を固めつつあるものの、経済状況の悪化による入場者数や協賛企業(団体)の減少が懸念されるため、解消することが課題となる。	29年度 現状維持で実施 30年度 拡充して実施 31年度 縮小して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	28年度
--------	------

事業コード	35300302	事業名称	映像関連普及事業			事業区分	主要な事業 政策宣言10
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	2447	新規・継続	継続	

■事業期間・根拠等

事業期間	平成	14	年	～		年
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化					
根拠法令等						

■事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	全部委託		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)		受益者(最終的に受益を受ける人)			
	川口市内の小学生		同左			
事業の概要	事業の目的(何のために)		事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)			
	映像産業を核とした次世代産業の導入・集積のための人材育成の一環として、小学生対象のコンピューターグラフィックス(CG)教室等を通して、映像制作スキルの高い人材を育成する。		株式会社デジタルSKIPステーションに業務委託し、SKIPシティ内のマルチメディアコーナーで、小学生にCG画像制作を体験させた。また、演出、主演、撮影、編集と映画制作の全ての作業に携わり、子どもたちの手によってゼロから映画を制作した映像作品の上映会も行った。			
28年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な活動実績			
	CG画像制作の体験、また短編映画の作成。作成した作品の上映会		項目	実績	単位	
		CG教室参加人数	270	人		
活動の成果【定性的評価】	事業を体験した児童達の映像制作への興味、好奇心、向上心等を刺激したことによって、映像制作へ興味を持つ人材育成に繋がったといえる。					

■事業活動・成果の状況

				28年度	29年度	30年度
指標①	名称	参加率	目標値	100	100	100
	単位	人	指標の種別	成果	実績値・達成状況	100
指標・目標値の説明(算定式)		総設定席数に対する参加率(欠席者含む) 参加者(欠席者含む)270人÷総設定席数270×100=100 (H28年実績)				
指標②	名称		目標値			
	単位		指標の種別			
指標・目標値の説明(算定式)						

■年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	008細目	01細々目	映像関連普及事業					
年度	28年度			29年度			30年度					
予算現額(A)	5,185			5,185			5,185					
決算額(B)	5,185											
財源	特定財源	0										
	一般財源	5,185										
概算人件費(C)	1,230			1,560			1,560					
従事職員人数(人)	常勤	0.15	再任用	0.00	常勤	0.20	再任用	0.00	常勤	0.20	再任用	0.00
総事業費(A又はB+C)	6,415			6,745			6,745					

■視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

■総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	事業遂行の効率化を図るため、事業内容・コストの見直しを図り翌年度以降の業務委託に反映させる。 また募集人数から実際の受講者に大きな開きがあるため、今後拡充できるかも検討する。	29年度	現状維持で実施
		30年度	効率化して実施
		31年度	効率化して実施